

教師力アップのための ビジネス理論入門 第10回

日本語教師が最低限知っておいたほうがいいビジネスの用語や概念を、日本語教育場面に当てはめて解説します。ビジネス理論を授業に応用して、教師力を磨きましょう。

文○佐々木瑞枝 イラスト○渡辺剛志

今月のテーマ アントレプレナーシップを応用する



佐々木瑞枝

武蔵野大学文学部・大学院教授、エコープランタン日本語教師養成講座講師、日本語ジェンダー学会会長。日本語教育の実践派として知られ、「外国語としての日本語」(講談社)、「日本語教育の教室から」(大修館)など著書多数。また文科省検定中学国語教科書にも書き下ろし文が掲載されている。ホームページ <http://www.nihongonosekai.com/>

新しい事業の創造意欲に燃え リスクに果敢に挑む姿勢

今、日本語教育の世界は、多文化共生に視点を置いて、教材作成を行った、研究活動をしたりと、新たな道を模索している過程にあるといえるのではないだろうか。

こんな時こそ、日本語学校の経営者や教務に携わる人たちを含めて、日本語教育に携わる人たちに求められるのが、アントレプレナーシップ*だと思います。

「アントレプレナーシップ」とは、あらゆる分野において要求されるものですが、日本語教育に関していえば、よりよい日本語教育の環境を創造するために、革新を起こしていくために必要な行動の元となるものといえるでしょう。

この春、国立国語研究所の移管に伴って「日本語教育基盤情報センター」(通称・日本語教育研究部門)が廃止されようとした時、存続のための署名活動に立ち上がった先生方がいました。まさにアントレプレナーシップを持った有志の姿に賛同した人の署名は、ごく短期間に一万人を越えたそうです。

アントレプレナーシップは 教育から生まれる

「国立国語研究所の移管に伴う日本語教育研究部門の廃止に反対する」署名活動の呼び掛けに応じて、立ち上がってくださった多くの方々は、在住外国人と一般の日本人との真の交流を促進することに重きを置く、という立場の人ではないでしょうか。

日本語教育の重要性を認識してもらう必要がある、そのために有効な手段は何か、それらを短時間のうちに考え、意見書を作成し、署名活動を行い、行動する、というのは、まさにアントレプレナーシップのなせる業といえますし、ビジネス界の「起業家」に共通する精神が根本にあるといえます。

日本語教育が抱える問題の解決や社会変革に積極的に取り組む「起業家的人材」は、そう簡単には生まれません。そういった進取の気性を持つ「先駆者」を応援する、社会風土の創出が重要なのです。

アントレプレナーシップ教育

一人の人が個人として、①問題意識を持ち、②新しいことに挑戦すること、③既存の社会をよりよく変革して

いける、そういった人材の育成が必要です。

日本語教育の場でも、単に四技能を鍛えるだけでなく、下記の事柄を伸ばす教育を、カリキュラムに盛り込むべきだと考えます。

・学習者主体の授業展開が可能で、学ぶ本人に役割・責任を与える
・学習者が自ら考え実行できる機会を与え、以下のような力を培う

発想力／創造力／独創力／知的好奇心／探究心／問題発見能力／問題解決能力／情報収集能力／分析能力／決断力／独立して行動できる力

・個人で考えた後、グループワーク、プレゼンテーションという展開をとる

次のようなことを念頭に置いた教材の開発が必要です。

教材開発

・学習者が、自ら課題を見つけ、解決するまでのプロセスを体験できる
・問題解決の答えは幾通りもあることに気付くことができる
・決断したことに自己責任が伴うことを認識できる
・日本語力だけではなく総合的な力が

*アントレプレナーシップ [entrepreneurship] は企業家精神。新しい事業の創造意欲に燃え、高いリスクに果敢に挑む姿勢のこと

グループディスカッション

アントレプレナーに必要な能力を書き出してみました。これらは日本語教育の授業の中で身に付けることができます。どんな授業で身に付けることができるか、グループで話し合ってみましょう。またあなたには、どんな力がありますか。ABCで自己評価してみましょう。

ペアワーク

- ・チームワーク力
- ・責任感
- ・積極性
- ・能動的姿
- ・コミュニケーション能力
- ・表現力
- ・プレゼンテーション能力
- ・判断力
- ・リーダーシップ
- ・自信や自尊心
- ・忍耐力
- ・柔軟性
- ・論理的分析力
- ・評価能力
- ・リスクを見極め、必要なリスクを負う力
- ・皆で行動できる力
- ・計画を実行に移せる力
- ・他人をやる気にさせる力
- ・チャレンジ精神
- ・変化を生む力



教材・教育プログラムの研究と開発／プログラム導入支援や教員研修／実践事例紹介や普及イベントの開催・講座企画や運営／インターンシップのコーディネート／起業家・企業人の学校への派遣コーディネート／調査研究・コンサルティング

要求され、教科間の枠を越えた活動が可能である

- ・地域社会の資源を活用できる
- ・学習者にとって、日本語の授業の学習目的やその評価方法が明確である
- ・教師以外の人の評価（自己評価、グループ評価、外部の支援者の評価など）が入る